



ツッピンゲル氏  
日本生糸ノ評論

999



114  
A 3650

日本生糸、特選

大正十一年四月  
侯爵郵寄贈



伊國ベルガモ府製糸場長ツツピンケル氏所評

日本生糸ノ論

前橋産ノ糸莖々細大ノ不同アリ且同束中ノ糸  
 上下品位ヲ異ニス即上面ノ糸ハ細ク下面ノ糸  
 ハ太ク且毛羽立ツノ失アリ故ニ洋商已ムヲ得  
 ズ其太者ヲ別テ毛羽立テ軟弱ナル處ヲ除去リ  
 同束ノ糸ヲ分テ上下二品トス其下等生糸ノ分  
 量ハ買入タル糸ノ良惡ニ應シテ多少アレモ大  
 抵百分ノ六ヨリ十五迄トス此下品ハ一キロ毎  
 ニ十佛<sup>フン</sup>或ハ二十佛ノ價ヲ減シ隨テ其多少ニ應

壹一興國博覽會事務局

シ上品ノ價ヲ騰貴セシム此糸ヨリ出ル屑ノ分量  
 量良品ナレバ百分ノ六ヨリ十二ニ至リ尋常ノ  
 品ハ百分ノ六ヨリ十五迄トス此糸ノ細モノ、  
 ミヲ擇ムハ弱クシテ且屑ヲ出ス、多シ然レ  
 細者ハ大者ニ比スレハ清潔ナリ前橋産中最紡  
 クニ宜キハ少ク青色ヲ帯ヒタルモノナリ  
 信州産ノ糸ハ其色一層清シ細輕ナル者ハ之ヲ  
 紡クニ多ク屑ヲ出ス此糸ハ手當り柔ニシテ光  
 澤多シ然レ下等ノモノハ良惡相混スル、前橋  
 ヨリ甚シ一東ノ中央ニ當ル糸ハ甚軟弱ニテ毛

羽立ツアリ故ニ信州ニ於テハ光澤アリテ清潔  
 ナレバ強テ美ナラズ且紡クニ惡キ糸ヲ産スル  
 多カレベシト思ハル  
 前橋信州ノ糸ヲ評スル處以テ他ノ糸ヲ評スベ  
 シ他國産ノ糸中前文ノ疵アル者十ノ八九ニ居  
 ル  
 甲州産ハ一層太クシテ且良惡混淆スル、多シ  
 其細者ハ一層彈力アリテ強キ、前橋信州ニ過  
 ク然レ甲州ハ一体清潔ナラズ其包方惡クシテ  
 買手系ノ品位ヲ熟知シ難シ故ニ此糸ヲ好マス

往々同包ノ中央ニ切レタル糸又ハ惡質異色ノ  
モノヲ見出ス事アリ中ニハ甲州産ノ美糸アレ  
モ格外高價ナリ  
飯田モ歐人ノ賞ヲ得ス其故ハ良惡混同シ糸弱  
ク包方惡クシテ品位ヲ鑒定シ難シ尋常ノ飯田  
ハ買人能ク注意戒心シテ之ヲ買フベシ其故ハ  
糸ノ細大不齊ナルノミナラズ束ノ下ニ惡繭ヨ  
リ取タル糸ヲ藏クニ置クコトアリテ其分量ノ多  
キ百分ノ三十ヨリ三十五ニ至ルコトアリ洋商此  
糸ヲ賞スル薄キハ本位不齊ニシテ繰ルニ難ク

且良惡ヲ別ツテ甚難キニヨル  
惣代ハ太クシテ外見美ナレモ精租混一ニシテ  
包方便ナラス其品位ヲ鑒定シ難シ  
勤工寮ノ糸ハ其製法ノ進歩ヲ見ルニ足り前條  
諸糸中ノ最良者ニ過ル一等ナリ先ツ糸強ク清  
潔ニシテ屑ヲ出スノ少キ百分ノ二三ニ過キズ  
糸ノ不同少シ去レモ未タ規則正ク監督至レル  
製造所ヨリ出ル最上品ト比肩シ難シ第一ノ疵  
ハ糸ノ毛羽立ツ處アルコトナリ此疵ハ全ク繭ノ  
惡キト鍋中ノ温度薄キトノミニヨルト云ベカ

ラズ恐クハ重モニ繭ノ品位下等ナルト糸ノ交  
振ノ少キニヨルナルベシ又一箇ノ惡處ハ其糸  
少ク鉛色ヲ帶ヘリ此原由ハ地所ノ卑キト及空  
氣光明ノ不足ナルトニ由ル此糸ノ光澤少キヲ  
見テ愈此原由タルノ明カナルヲ知ルベシ一體  
此糸ノ外見美ナラザルト毛羽立ツトハ其位價  
ヲ減スルト勿論ニテ歐洲産ノ糸ト比肩セント  
スルニハ糸ノ平滑ナルト未ダ十分ナラズト思  
ハル若最白最明ナル色ノ糸ヲ得ントセハ少ク  
凡一日ニ三回ツ、鍋水ノ半ヲ換ヘ日暮ニハ全

ク水ヲ去リテ鍋底ノ塵埃ヲ掃除スベシ此水ヲ  
換ルニハ一時ニ之ヲ換フベカラズ幾回ニモ之  
ヲ爲シテ急ニ水ノ冷カナルヲ防キ糸ノ強サヲ  
失ハザルヤウ爲ス肝要ナリ此外此糸ノ疵ハ  
繰リ方十分ナラス糸ト糸ト變上ノ一處ニ集リ  
互ニ粘附スルニ至ル此書ヲ去ルニハ繰リ方ヲ  
徐ニシ變ノ數回運轉セシ後ニ糸ト糸ト相集ル  
ヲ要スベシ然ル時ハ糸既ニ乾キタルカ故ニ相  
粘スルトナク一層歐洲産ニ近似セル糸ヲ生ス  
ベシ



